

福島殿ハ煩ヨナト、戯言ノ様ニ宣ツルヲ聞傳ヘテ、諸人口號ニ、福島殿ハ煩ヨナト云ケレバ、福島
 扱ハ吾虛病ヲ作テ軍ノ勝負ヲ窺也トゾ思給ラン、二心有ハ臆病ニモ勝リテ、義人志士ノ所恥也
 一人ノ手ヲ以テ萬人ノ口ヲ掩難ケレバ、此群疑晴スベキ様モナシ、所詮病平愈セバ、石州へ越戰
 死セント思究メテ在シガ、今朝馳來リ物具イツヨリモ花ヤカニヨロヒナシテ、元就朝臣ノ面前
 へ出仕セシカバ、元就病氣ハ本復シツルヤト宣ケルニ、福島頓首シテ涙ヲ波亂々々ト流シテ退
 出シタリシヲ覽給テ、福島ハ今日討死スベキ體ニ見エタリ、可惜兵ヲト宣ケルガ、果然トシテ三
 吉ガ備ヨリ六七町先立テ切岸ニ馳上リ、藝州、佐藤ノ住人、福島三郎左衛門光貞生年四十三、今日
 ノ先陣也トゾ名乗タル、

〔松隣夜話_下〕抑今度松任へ謙信取詰玉ヒケル、其晩ヨリ疫痢ト云惡病、城内ニ時花、十人ニ七八人
 煩、其中二人三人ハ三日ヲ不過シテ忽死ス、依之長勇兵タリト云ヘドモ、防戰不叶所存シテ早々
 落城ス、是ヲ上方筋ニ於テ、散々沙汰申誤リ、謙信ノ働キ玉フ處ハ、諸人惱ミ敵スルコトヲ不得、唯
 人ニテアラズトゾ取沙汰アリ、

虎列刺

〔時還讀我書_上〕文政壬午_年〇五ノ秋末冬初、浪華ニ三日_〇。コロリト稱スル病流行セリ、初ハ鎮西ヨリ
 起リテ_{九州ニハサノミ多カラズ、中國ニ至リ甚トイヘリ}浪華ニ及ボシ、京師ニモ偶ハ病モノア
 リト、其證初起卒ニ惡寒シ、續テ吐瀉甚ク、或ハ胸膈へ迫リテ、急ナルハ日ヲ出ズ、緩ナルハ三日許
 ニシテ斃ルユエ、カクハ名ケシト、浪華ニテハ甚多ク、沿門闔戸死亡スルモノアリトキケリ、導水
 瑣言ニイヘル三日坊ノ類ナルベシトイヘリ、何レ霍亂ノ一種ニテマアルベキカ、百百漢陰ハ増
 損理中丸ノ證ナリトイ、送リタリ、ゲニモ然ルベシ、

〔皇國醫事沿革小史_{後編}第六期〕文政五年_{紀元二千四百八十二年}八月、虎列刺病始メテ我日本ニ流行シ、先ヅ西
 國山陰山陽ノ兩道ニ發シ、傳播ノ速カナル僅カニ一日ヲ經テ、既ニ畿内ニ蔓延シ、病勢甚ダ猛